



特集 子どもたちの居場所を守る学童クラブ コロナ禍での新たな挑戦

新型コロナウイルスが猛威を振るう最中、国は2月27日、学校の休校要請を発表。「日中の子どもの居場所や仕事はどうしよう」と困惑した保護者も多かったと思います。併せて同日、「原則、放課後学童クラブは開所」という通達がありました。子どもが朝から1日過ごす場所になった学童クラブでは何が起こっていたのか、沼田東学童クラブと沼田東第2学童クラブに密着しました。

「ただいま」から「おはよう」へ

3月1日午前7時45分、「おはよう」と元気な声が響き渡る沼田東学童クラブと沼田東第2学童クラブ。普段は午後3時頃に下校し「ただいま」と帰宅するかのようないきつでやってきますが、この日を機に朝から1日過ごす場所になりました。

学校の休校発表が木曜日で、休校開始と学童クラブの1日開所が翌週月曜日。急な決定で落ち着いて準備する時間もなく、誰もが経験したことのない事態に戸惑いました。一方、「子どもを守ろう」「誰もが大変なんだ」という思いが強くなり、不安と覚悟の狭間に気持ちが揺れ動きながらも、子どもの居場所を確保しようとして受け入れを決めました。

両学童クラブは沼田東小学校の敷地内に並んで位置し、同校の子どもが利用しています。2004年に沼

田東学童クラブが開設。利用者増加に伴い2009年、沼田東第2学童クラブが設置され、移転を経て、2017年に現在の場所で活動しています。各学童クラブには全学年約40人が在籍しています。

学童クラブの役割は保護者の就業を支援し、子どもの命を守り心に寄り添うこと。感染防止対策を徹底し、子どもが長い1日を安心して過ごせるように、不安になっていないかと心の声に耳を傾けながら1日1日を必死に乗り越えました。

3月27日、休校期間が終わり、春休み終了後の4月7日に学校が再開。保護者の人数を制限するなど縮小しながらも、新1年生は無事に入学式を迎えられ、ほっとしたのもつかの間、4月7日の国の緊急事態宣言を受け、県は学校を再び休校にするという発表をしました。

4月13日、学童クラブの開所は再び朝からとなり、6月中旬まで続きました。3月の受け入れ時と同様な対応を取り、毎日できることを必死に続けました。地域の団体から消毒液やマスクの寄付など多くの人の支援もたくさん受けました。

長く続いた休校の間、毎日の奮闘で感染者はゼロ。大きく体調を崩す子どもも出ませんでした。新型コロナウイルスを共有したからこそ、支援員も子どもと共に学べたことがあり、成長できたということでした。

学童クラブ支援員が語る

コロナ禍を乗り越えて

学童クラブは約3カ月半、休む間もなく朝から子どもたちを受け入れ続けました。新型コロナウイルスに向き合いどう乗り越えたか、その経験から何を学んだかを学童クラブ支援員が振り返りながら語ります。

学校の休校や学童の1日開所を知ったとき、どう思いましたか

伊藤 保護者の電話で休校を知り、慌ててテレビをつけて「この先どうなるだろう」と不安が募りました。**大河原** 思いがけない知らせに驚きました。子どもの命を守るこの責任と、誰もが未経験で未確認の新型コロナウイルスと戦うことに、どうすればいいのかとまどいました。

伊藤 保護者へはどう対処していくとはっきり伝えられないもどかしさ、併せて、皆さんの切実な現実を思うと何とかなくはないという思いも強くなっていました。

学童を利用する子どもの保護者の理解や協力などはどうでしたか

伊藤 関係機関とのミーティング

で、できるだけ学童クラブの利用自粛をお願いする方針を取り、保護者は状況を理解し協力してくれました。業種などは問わず、仕事や家庭の事情で預けなければいけない子どもに限って受け入れ、体温の測定と体調の変化など健康観察表への記入をお願いしました。

大河原 第2も同様です。受け入れ人数が通常の4分の1になり、密を防げる環境で保育に当たることができました。保護者からの「大変な中ありがとう」「預かってくれるので仕事に専念できる」といった感謝の言葉が支えになっていました。

1日の過ごし方や感染防止対策の工夫、遊びの変化を教えてください

伊藤 マスク着用などの一般的な対策に加えて、子どもは検温してから

入室させました。朝ご飯を食べたかなど体調管理は普段よりも気にし、外の人を室内に入れない方針を取って保護者の迎えは入口で待っていてもらうなどに切り替えました。

大河原 お昼やおやつは1人1人の間隔を空けて、一定の方向を向いて黙って食べました。驚いたのはそうすることが感染を防げる大切なことと、子どもたちは日常生活を通して理解していたのです。普段と真逆のことをしなくてはいけないことがたくさんある中でも、何度も言うて聞かせるということにはなかったです。

伊藤 地域の人からも消毒液などを寄付してもらったのは助かりました。品不足で購入が困難だったので、いただきものを室内にたくさん設置し、間に合わせることができました。

大河原 消毒液は入口や目に留まる場所3カ所に設置して、消毒の習慣付けを呼び掛けました。

伊藤 朝は学校からの宿題や学童で用意したドリルなど勉強の時間になりました。ほとんど外に出られず、室内で過ごすことが多かったです。

伊藤 朝と午後に勉強時間を設け、遊びの時間も充実させました。伊藤先生から「新聞紙のテント」の作り方を教えてもらったら好評で、お昼ご飯をテントの中で食べるために、時間に間に合うように一生懸命作るんです。

徹底した体調管理 勉強も遊びも充実



沼田東第2学童クラブ支援員
大河原明美さん（上原町）



沼田東学童クラブ支援員
伊藤亜希子さん（坊新田町）